

## V231b JVO ポータル開発の進捗：第一版の現状と第二版の試用版の公開

白崎裕治, 大石雅寿, 水本好彦, ザパート クリストファー (国立天文台), 川口俊宏 (札幌医科大学), 石原康秀, 山田久仁, 檜山貴博 (富士通)

Japanese Virtual Observatory (JVO) 開発グループでは様々な天文データへのポータルサイト、JVO ポータルの開発を進めてきた。本サービスは <http://jvo.nao.ac.jp/portal> において誰でも利用可能である。国立天文台が取得した主要な観測データであるすばる望遠鏡のデータや、ALMA 望遠鏡のデータの配信に加え、世界各国の天文データセンターが国際標準仕様に従って公開している天文データサービス (VO) への一元的なアクセス機能を提供している。2013 年度より検索インターフェイスの見直しを開始し、より利用しやすくなるようデザイン・レイアウトの共通化などを取り入れた第二版の開発を進めてきた。2014 年度の開発では基本的な検索機能である、大規模カタログ高速検索<sup>1)</sup>、VO 基本検索<sup>2)</sup>、VO 並列検索<sup>3)</sup>、JVOQL 検索<sup>4)</sup> が新たなユーザーインターフェイスにより実行可能となった。検索機能に加え、検索結果表示機能 (VOTableView) やユーザデータの一覧表示機能 (JVOSpace) についてもユーザーインターフェイスが刷新された。第二版の開発と平行し、第一版において提供されている ALMA データ検索システムや JVOsky 等の更新も行った。ALMA データ検索システムでは、データ登録日で検索する機能などが追加され、JVOsky についてはこれまでの Google Sky を利用したシステムから Aladin Lite<sup>5)</sup> を利用したシステムへと移行を行った。本講演では以上の開発成果について報告を行う。

<sup>1)</sup> 複数の大規模カタログを一度に座標検索する機能。<sup>2)</sup> VO サービスを一つ選択し条件指定をして検索する機能。<sup>3)</sup> 全 VO サービスに対して一括して座標検索する機能。<sup>4)</sup> JVO portal 用に SQL を拡張した検索言語による検索機能。<sup>5)</sup> <http://aladin.u-strasbg.fr/AladinLite/>